

意見交換「子どもの安全・安心について」事前に寄せられた意見

(1) 児童虐待について

(50 音順)

委員	ご意見
安東委員	<p>【保育園の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の役割として早期発見・早期対応、関係機関等と連携を図り、子育て支援・保護者支援を行っています。 ・ 要保護児童対策地域協議会等の会議に出席して各専門機関と情報交換を行っています。 ・ 保育士が「人権学習」や「虐待対応」の研修会に参加したり、園内研修に取り入れています。保護者に向けて「子育て講演」を実施しています。
定宗委員	<p>(1) 「あしたはできるようにするからおねがいゆるして」船戸結愛ちゃんの言葉、絶対に忘れてはならないと思います。</p> <p>(2) 子育て支援課・市社協等のご支援により、子育てサロン等の子どもとお母さんを支える活動も幼稚園・保育園と連携しながら「地域で子育て」という意識に変わりつつあります。</p> <p>しかし、課題を抱えながら周囲に助けを求める「声を出せない」「声を出さない」親子(家庭)をどのように把握し、支援につなぐのか、情報なくしての活動が私たちの悩みですが、「気になる家庭」について、地域住民から積極的に情報の提供を得られるよう地域住民との関係づくりに努めなければと考えています。すなわち地域を意識した活動です。</p> <p>(3) 中学校区ごとに開催されています「子どもを守る地域ネットワーク会議」は年1回です。地域で子どもを守る関係機関が集い話し合えることは本当に心強くホッとする会ではありますが、「グループワーク」での意見・情報交換では毎年同じような内容で進められています。一考が必要ではないかと思います。施設見学等取り入れてはどうかと思います。</p>
澤口委員	<p>【課題と感じていること】</p> <p>大分市としては縦割りでない、課を超えた情報共有が必要です。大分市要保護児童対策協議会や大分市保健所、児童相談所との情報共有などです。</p>

長田委員	<p>毎回若い子どもの虐待事件が起きると、どうしてどうしたら助けることが出来るのか、と何時も会議や勉強会が開かれます。</p> <p>関係者お一人お一人がどの様にしたら助ける事が出来るか今こそ、責任を持って知恵を出して頂きたいと思います。ご自分で答えが出せないとき、どこに相談したら良いか。怪しい時は虐待者から隔離する、一度虐待したらそう簡単には本人は治らないのではと思います。</p> <p>よく躰のため、本人のため、等々もういい加減にしてほしいです。痛ましい事件が無くなる事を全力で願っております。</p>
姫野委員	<p>主任児童員の役割上、地域からの子どもに関する情報もたらされることはよくあります。情報提供や相談は、近隣の住民や保護者、地域の各役員などからです。学校や保健所、子ども家庭支援センターとも連絡を取り合うことがあります。</p> <p>子育てサロンの中でも、保護者から相談を受けることが多いです。</p>
淵野委員	<p>【本件に関する課題並びに団体としての取り組みについて】</p> <p>「施設を支える現場の保育士等の職員不足や急激な新規採用による経験不足も心配」「今後、事故防止の観点から、これからの課題に対して、関係者間で十分考慮の上、組織としての体制を整備し、対応していく事も必要」などが重要な課題となります。</p> <p>(1) 目黒区の事件や内臓破裂で死亡した9歳の男児などを受け、保護者教育をどうすべきか? 「我が子を愛おしく思う気持ちを持ち続けさせていく」など施設としての配慮などを再考する必要があると感じます。</p> <p>虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策(平成30年7月20日児童虐待防止対策に関する関係閣僚会議決定)のポイントや教育・保育施設等・事業者への注意喚起・提言等について、団体としての取り組み(学習会)は必須ですが、大分市子ども・子育て会議の中で改めて確認・周知する時間があればと思います。</p> <p>(2) 特に、大分市の子ども達が安全・安心に各施設で生活出来るようにするためには、保育教諭の質が求められます。そのためには、保育士不足の改善は喫緊の課題です。大分市として公私に関係なく保育士・保育教諭の採用について、早急に対策を考えていく事ができるか? が大きなポイントになるのではないだろうかと思います。</p>

(2) 幼児教育・保育施設や学校等での活動中及び登下校時の安全・安心について

(50 音順)

委員	ご意見
伊東委員	<p>【取り組みについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、幼稚園の登下校時は、自治会や子ども会の親たちが、見守りパトロールをしています。 ・不審者情報などは、学校や幼稚園からメールが来るようになっていきます。 ・幼稚園バスのお迎えは子どもの名前が入っているネームプレートをかけていないと引き渡してられません。 <p>【課題と感じられる事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りパトロールの方々の高齢化で人数が減少しています。保護者も仕事等で下校時のパトロール参加は難しい状況です。 ・全国で色々な事件が起きているのを見ると、簡単に人を信用出来ない時代になってきているような気がしてさみしいです。自治会の方々のおかげで何事もなく、子どもたちは生活出来ていますが、最終的には「自分の身は自分で守る」事をしっかり伝えなくてはいけないのかなと思っています。
小野委員	<p>日ごろから青少年の健全育成に関わるものとしての思いを述べます。</p> <p>子ども育ては、家庭から始まります。大切なことは、生活する上で経済面が安定していることです。また、家庭間の人間関係も些細な問題はあるとしても安定していることです。特に親子の信頼が 培われていることも大切です。小学生までの子どもは、親の姿を見ながら育つことが多く、人としての生き方の基本である礼儀作法を学んでいきます。親のいろんな人生観が子どもの人生観になりやすいものです。夫婦円満が子育ての第一歩です。</p> <p>子どもを取り巻く様々な問題が山積しています。青少協として、直接家庭や学校に入り込むことはできませんが、子どもたちの問題から目を逸らすことなく日々登下校指導などに取り組んでいます。</p> <p>女性が活躍する社会、幼い子供を持つ母親が働きに出なければならない時代を迎えているように見えます。そのために保育園の充実化が叫ばれています。ゼロ歳児から保育園に通い、小学校低学年までは育成クラブのお世話になっている子どもが増えています。また、ひとり親家庭が増加していることから、子どもの貧困問題が拡大していると聞きます。具体的な実態を知りたいものです。</p> <p>子どもと関わりのある地域の人々が青少年健全育成連絡協議会を組織し「地域の子どもは地域で育て守る」を理念とし、決して子どもの問題に無関心になることなく、日々地道に活動しています。</p> <p>今、問題を抱える子どもたちのため、様々な支援を実施し、支援しようとしていますが、支援だけで子どもたちの未来が開かれるのでしょうか。</p>

定宗委員	<p>7月20日大分合同新聞朝刊に「子を守る環境に矛盾」という投書が載っていました。「子ども会」のあり方について地域で考える時がきているのではないのでしょうか。見守り活動をしている者として、淋しさを感じました。</p>
仲嶺委員	<p>【通学路の安全性について】</p> <p>現在、登校時（小学校）に保護者や地域の方が見守り誘導に立たれている姿を拝見致しますが、下校時は、学年で下校時間も異なり、見守り誘導の方もおられません。また、下校の様子を見ていますと、歩道が狭いため、友だち同士で横に並んでいると車道にはみ出している子どももおり、危険を感じることもあります。</p> <p>そのため、低学年の下校時にも見守り誘導があると望ましいと考えます。下校時間帯は、保護者や地域の方も仕事で、見守り誘導者の確保が難しいと思われませんが、下校時の事故や事件も発生していることから防止策が必要ではないかと思えます。</p>
新名委員	<p>【課題】</p> <p>（１）見守り空地地帯</p> <p>登校時は集団登校しているので問題はないのですが、下校時には人通りの少ない箇所も多いかと思えます。どのような対策をとればよいでしょうか？</p> <p>（２）登下校中の交通事故について</p> <p>最近、登下校中の列に暴走車が突っ込む事故が多発しています。どのような対策をとれば事故を軽減できるでしょうか？</p> <p>【取組事項】</p> <p>（１）下校時パトロールの実施</p> <p>パトロールは毎週火曜日を基本とし、基本的に1～6年生の保護者で実施しています。</p> <p>（２）登校時の集団登校</p> <p>朝は地区ごとに登校班で登校しています。交通量の多い場所などは、保護者が誘導し、地域の方のご協力もいただいております。</p>
西宮委員	<p>育成クラブでは、放課後や長期休暇等に子どもたちが安心して過ごせる事を常に目標としてきました。</p> <p>子どもたちと共に過ごす中で、それぞれに個性や家庭環境の変化、子ども同士の人間関係等でさまざまな問題やストレス、不安を抱えていると感じています。</p> <p>私たち指導員に何が出来るのだろうかという自問自答を繰り返すことも多々あります。</p> <p>その中でやはり一人一人に寄りそう事が一番だと感じています。その必要性を十分感じながら、なかなか一人一人に寄りそう時間を持たないジレンマを感じています。</p>

渚野委員

(1) 厚労省 総務課長 長田氏より 「教育・保育施設等における重大事故防止策を考える 有識者会議 年次報告」について7月30日の会議でお話を頂戴しました。まさに今回の文書はタイムリーの内容です。

①平成26年9月に「教育・保育施設等における重大事故の再発防止策に関する検討会」が開催され、同年の11月に中間まとめがなされ、平成27年12月に最終取りまとめが行われました。

②国はこの取りまとめを受け、平成27年4月から重大事故が発生した場合の国への報告の仕組み等が整備するとともに、平成28年3月に施設・事業者及び地方自治体向けの事故防止等のガイドライン及び検証について通知しました。これにより自治体では検証及び再発防止策を検討することになっています。

③平成28年4月に「教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議」が立ち上がり、検討課題をあげました。

- ・ 死亡事故等の検証報告を踏まえた再発防止の検討
- ・ 事故情報データベース等の充実及び傾向分析
- ・ ガイドラインなどの改善

・ 教育、保育施設等における死亡事故等についての地方自治体による検証報告を平成29年5月から平成30年5月までの8件のヒヤリングを行い、再発防止策について検討を行ったところです。

そこで、今回、年次報告として初めての取りまとめを行ったものです。(目黒区の件にも触れて)

④教育・保育施設での死亡事故はあってはなりません。ただ、一方で施設を支える現場の保育士等の職員不足や急激な新規採用による経験不足も心配されています。

今後、事故防止の観点から、これからの課題に対して、関係者間で十分考慮の上、組織としての体制を整備し、対応していく事も必要だと考えています。

事故防止のためには、行政や施設・事業者の対応はもちろん、保護者においても施設に対しての理解と協力が必要です。双方が連携し、子どもの安全について意識する必要があると考えています。

⑤有識者会議では、教育・保育施設等において尊い命がなくならないように強く願いながら議論を重ねていく事とします。

(3) その他

委員	ご意見
安東委員	<p>【自然災害について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園では、災害対応マニュアルを作成し毎月避難訓練を実施しています。また、消防署・警察署の職員から災害避難について講演をしてもらっています。 <p>色々取り組んではいますが、実際に大災害が起こった時、子どもたちの命を守れるかどうか不安な気持ちになります。</p>
澤口委員	<p>【自然災害について課題と感じていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進都道府県の対応の実例、子どもを被災後にどのようにサポートしたのでしょうか。 (例 東日本大震災後の東北各県、集中豪雨災害後の岡山県、広島県、愛媛県) ・ 新潟市の小学生殺人事件後に新潟市がとった具体的な対策について ・ 地震、津波対策として被災時の情報伝達方法の確認について ・ 小中学校、幼稚園、保育園の避難訓練の徹底できたかどうかの確認。避難訓練を行って感じたことの情報収集について
定宗委員	<p>何年振りかで学校評議員に返り咲きました。 担当は学校教育課ではと思いますが、発達障害児に対する市の支援体制について少し知識がと思いました。</p>